

来年度は第5期総合計画の初年度で、新しい施策も考えていると思うが、予算編成の基本的な考えを伺う。

高薄町長

厳しい財政状況ではあるが、福祉・医療・子育てなど町民生活に直結するもの、また、今後、新たに対策していかなければならないもの等、バランスよく施策を実施しなければならぬ。国も財政がひっ迫しており、一層、行革精神に基づいて、事業の重要度や優先度を考慮しながら、予算編成を行っていききたい。

コミュニティバスの運行状況は

山岸政彦議員

コミュニティバスの試験運行が12月から始まっているが、1日の利用人数などの利用状況



3月まで無料で試験運行されるコミュニティバス(町民巡回バス)は、町民の足として活用されている。

と、利用者の反応について伺う。

高薄町長

12月10日現在で、清水地区が1日平均23・6人、御影地区が1日平均14・7人と、昨年度よりも利用者が多い状況である。今年度の試験運行は、路線を決定する際に利用者アンケートや地域公共交通活性化協議会の意見を参考にして、停留所を設けるなど、利用しやすくなるように努めた。

新年度からの実証運行に向けて検証を行っていききたい。

来年度予算編成の考え方

原 紀夫議員

町の予算の主力を占める地方交付税が激減し、この間に緊急の改善計画を柱として、町民や職員に緊急事態を周知し、計画当初予定していた財政状況も、好転の兆しにあることは喜ばしいことである。

第5期総合計画は、本町の過去に類を見ない町民と職員が関わった手づくりの計画であり、

今後、職員と町民が一体となった取り組みに期待したい。

来年度は、この計画を踏まえた初年度であり、基本目標に沿って編成された予算は、まちづくり計画策定委員に事前に説明すべきと考えるがどうか。予算編成の考え方を伺う。

高薄町長

第5期総合計画に基づきながら、住民の生活を大事にし、安全・安心なまちづくりを目指した予算編成を行っていききたい。

医療・福祉はもとより、教育や産業にも重点を置くなど、バランスのよいものにしていききたいと考えており、また、まちの元気・活力につながるような事業にも取り組みたい。

まちづくり計画策定委員への周知方法等については、今後、検討していききたい。

公共施設の耐震診断と対策

原 紀夫議員

本町の公共施設は、旧耐震基準により建設された施設が大半で、今後、早急な診断と対策が急がれると思うが、現状の考え方は。

特に、緊急時に災害拠点となる消防庁舎等の構造耐震指標は、大地震で建物の倒壊や崩壊がないとされる0・6以上に対して、0・9以上が望ましいとされており、早急な対応が必要と考える。補強工事も含めた対応策について伺う。

高薄町長

公共施設の耐震化について、小・中学校は全て終了したが、今後は幼稚園・保育所を優先的に実施し、他の施設も順次行っていききたい。

また、消防庁舎については、現在、建替え計画

を進めているので、そのなかで対応したい。

海外資本による町内山林の買収

奥秋康子議員

森林の果たす役割は、私的な経済価値だけではなく、水資源の保持、地球温暖化防止、国土資源の保全の観点からも慎重な対応が求められる。

現行の制度では、開発規制がなく、山林土地売買は、閉鎖的ともいえる山林ブローカーによって取引されているというが、透明性を高めるためにも、行政に売買相談窓口の設置や、森林の持つ公益的機能を維持するため、事前届出制を設けて利用目的をチェックできるしくみを制度化すべく、国に働きかけていくべきではないか。